

平成27年度 学校経営方針

八戸市立明治中学校
校長 三浦 一純

1 教育目標

- (1) 自ら学ぶ生徒 [知]
- (2) 思いやりのある生徒 [徳]
- (3) 心身を鍛える生徒 [体]

チャンス この機会に	チェンジ どう変わる (目標設定)	チャレンジ 何に挑戦!
----------------------	--------------------------------	-----------------------

2 努力目標

- (1) めあてをもって学習に励もう 【確かな学力の保証】
- (2) 相手の立場を考えて行動しよう 【思いやりの心の育成】
- (3) 健康づくりに励もう 【たくましく生きるための体づくり】

3 経営方針

中学校での3年間は、生徒が社会的自立を実現するための人生の土台づくりの時期である。知・徳・体の調和のとれた人間育成に根気強く取り組んでいきたい。そして、出会いを大切に、一人一人のよさを生かす教育活動に誠心誠意努めていきたい。どんなことがあっても、生徒の可能性を信じ、プラス思考で仕事をするチーム明治を組織し、教育活動を展開したい。

《教師の基本姿勢》

- ①常に生徒の心と身体の内を最優先にして考える。
- ②人を教育する仕事の重みを考え、生徒のために、常に信念と行動力をもって仕事をするとともに、謙虚な気持ちで耳を傾け、学ぶ姿勢を忘れない。
- ③生徒指導の根幹は教師と生徒の信頼関係の構築にある。常に誠実な気持ちで生徒に接し、生徒の成長を喜び合える教師集団でありたい。
- ④すべての教育活動にカウンセリング・マインド（受容と共感）をもった姿勢で臨む。
- ⑤全教職員がチーム明治として、学校経営に対する参画意識をもち、各自の持ち味を最大限に生かし、協力し、責任をもって仕事に取り組む。
- ⑥学校や地域の特色を十分に生かした教育活動を心がける。
 《 笑顔で 元気に さわやかに 明治中 》

4 学校目標

「自らの進路を考え、何事にも主体的・意欲的に取り組む生徒の育成」
～チャンス チェンジ チャレンジ の場の設定を通して～

〔重点施策〕

- (1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付けさせるために、「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりを行う。「わかった！できた！身についた！」
 - ①「聴く・話す・読む・書く」等が効果的に展開する、メリハリのある生き生きとした授業づくりを行う。授業改善チェックシート等を活用した授業改善。
 - ②適切な配慮・支援の工夫をして、個性・個人差に応じた個別指導を行う。
 - ③学習習慣を形成する指導を行う。家庭学習でのやくそく重点目標：最初に「宿題」！を徹底させるため、帰りの会で宿題・家庭学習の計画を確認させる。
 - ④学習意欲を向上させる取り組みを根気強く行う。基礎力コンテスト等の導入・活用の工夫を図る。 ※定期考査平均点での男女差の解消をめざす。
- (2) 望ましい人間関係の構築を図り、生徒一人一人が活躍する場・認められる場の充実を図る。
 - ①挨拶・返事、プラス1（心を添える）を意識した言動の励行。
 - ②安心できる雰囲気学の学級づくり。
 - ③リーダー性を経験する場の設定。
- (3) 将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育活動を行う。
※何事も、自ら進んで取り組む、より積極的な心を育てるために、「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。行事、体験活動等。
- (4) 保護者や地域住民との協働に努める。←学校支援コーディネーターとの連携。
※地域社会の一員として積極的に関わろうとする意識を育てる。地域への貢献。

5 27年度の4つの実践 → **チャンス チェンジ チャレンジ** の場の設定を通して

(1) 一人一人の子どもに「確かな学力」を身に付ける学校づくりを目指す

- ① 将来の夢や希望をもたせるキャリア教育の視点に立った教育の推進
 - ㊦ 何事も、自ら進んで取り組む、より積極的な心を育てるために、「なぜ学ぶのか」「何を学ぶべきか」をキャリア教育の視点を通して考えさせる。
 - ㊧ 今取り組んでいることと将来の社会との関係を見出し結びつけることにより、自分が学んでいる理由や重要性を知ることを目指す。
 - ㊨ 単なる進路先を探す教育ではなく、自分を知ることからはじめ、何に向いているのか、何を高める必要があるのかを面談等を通して一人一人に対してサポートする。
 - ㊩ 学校外部の教育資源の円滑な確保に努める。
- ② 授業改善による学力の向上 → **心（やる気）のスイッチを入れる工夫**
 - ㊦ 意欲的（自主的）に取り組むことを念頭に置き、授業がおもしろい・楽しい・不思議だという思いをもたせる授業の実践を通して、「学びたい」「もっと勉強したい」という気持ちを育てる。**生徒の視点を生かす授業づくり。**
 - ㊧ 全職員が積極的に授業公開し、意欲を高める指導の工夫に視点を当て、授業について学び合う土壌を育む。
 - ㊨ 「特別支援教育の視点」を取り入れた授業づくりのために、授業改善チェックシート等を有効活用し、授業改善に努める。**根気強い指導。**
- ③ 個に応じた指導 → **T T活用、特別支援アシスタントとの連携**
確かな学力を確かなものにするために、T T指導を取り入れるとともに、適切な配慮・支援の工夫をして個性・個人差に応じた個別指導に努める。
学習意欲の2極化の解消のための指導の工夫（基礎力コンテスト等の活用）。

- ④ 学習習慣の確立を図る。 ※ **J S 共通実践**・・・重点目標：最初に「宿題」！
→生活記録表の活用、短学活を利用した学習計画、学習の仕方説明会の実施。
家庭学習の習慣化に生かす。**帰りの会での宿題・家庭学習計画の確認。**

(2) 望ましい人間関係の構築を図る → **生徒理解、自己理解、他者理解の充実**

- ① **ソーシャルスキルの実践**
Q - U 検査を実施し、その結果を参照し、ソーシャルスキルトレーニングによって、人間社会のルール、上手な聴き方、上手な話し方、友達づくりのスキルを通してよりよい人間関係を築く方法を身に付けさせる。
- ② **安心できる学級づくり**
傷つけられない安心感がある学級・認められたい欲求が満たされる学級・一体感もてる学級づくりを推進する。 ※ **毎月、生活アンケートの実施・活用。**

(3) 子ども一人一人が活躍する場・認められる場の充実を図る

- ① 学年・学級経営並びに学校行事において、「自尊感情」や「自己有用感」の育成に努める。
- ② 行事などの取組の後に、お互いをたたえる機会の設定に努める。
- ③ 多くの生徒がリーダーを経験できるような機会や場面の設定に努める。
- ④ 生徒会活動の活性化を図る。・・・全校生徒一人一人の参画意識を高める工夫
生徒会役員のみならず、全校生徒一人一人が参画意識をもって取り組めるような日々の活動に重点を置いた企画・運営を実践する。

(4) 保護者や地域住民との協働に努める

- ① 保護者や地域住民に公開する授業や行事を工夫・実践する。
- ② 地域の行事や活動に積極的に参加するとともに、地域へ貢献する。
→ 地域をよく知るとともに、地域の行事やイベント及びボランティア活動に積極的に参加することを推進し、地域の活性化の役割を果たしつつ社会への貢献の仕方を学習する機会とする。
- ③ いつでも誰でも学校に足を運べるような雰囲気づくりと情報発信に努める。
- ④ **P T A 活動の活性化を図る。学校支援コーディネーターとの連携・協力。**